

花咲き山



校長だより

2016(H28)9.12

4月に山南小学校に赴任してきて以来、毎日のように子どもたちの純粋さに、保護者、地域のみなさんの温かさに触れています。

子どもたちを成長させるためには、教師として、保護者として、どう関わっていくべきかを伝えたくて校長だよりを出すことにしました。道しるべや心の寄りどころほどのものではないです。それはあなたの主観的だろうと思われるかもしれません。参考程度にしてもらえたらと考えています。

題名は、絵本「花咲き山」からとりました。人のためになることを1つすると、山に1つ花が咲くというお話です。山南の山を花いっぱいになりたいという夢を託してこの題名にしました。

まずは、子どもたちが将来、幸せを感じてほしいという点から教育を考えてみたいと思います。

1 人生の幸せ

人生の幸せとは、何でしょうか。名誉を得ることですか。お金を得ることですか。健康でいることですか。人は死ぬ時どんなふうに人生を振り返るのでしょうか。「人が羨む社長になれて自分の人生は幸せだった。」「金メダルが取れて幸せだった。」「たくさんのお金を手にして幸せだった。」「健康でいられてよかった。」と思うのでしょうか。自分は父を亡くした時、父の最期を看取ることができませんでした。母はずっと傍にいたのですが、父は認知症でものも言わず、逝ってしまったそうです。多くの亡くなる人は、死ぬ間際、家族や会社の人、これまでにつながって来た人へ感謝しているそうです。その人たちは、きっと幸せだったのでしょう。この事実から人の幸せとは、人と人とのよりよいつながりからしか生まれないのだと思っています。



2 自己実現

「人は自己実現のために生きている。」と言われます。自分の夢や希望を叶えようと日々生活をしています。その夢や希望を持つことが生活の糧となり、潤いを与えてくれるでしょう。

カープの快進撃を支えた新井さんが、ヒーローインタビューで必ずこう言っています。「ファンみなさんに喜んでもらえてうれしいです。」と。決して「俺が打ったから勝ったんだ。」とは言いません。彼の夢はカープを優勝に導くこと、ファンに喜びを与えることが

夢なのではないでしょうか。それが彼の自己実現なのでしょう。そんな姿に私たちは感動しているのではないのでしょうか。

バドミントンで活躍した某選手が、大会での報酬や選手強化の費用をギャンブルや装飾品を購入するために使用した事例があります。「大会で活躍し得た報酬はどのように使ってもいいだろ。きんきらに飾った自分を見た子どもたちは、活躍したらそうなれるんだと思うだろう。それが夢を与えることになるんだと。」と自己中心的な発言をし、干されてしまいました。この選手は確かに自己実現をしています。それで幸せだったのでしょうか。



こうしてみると自己実現は、自己中心の場合は、幸せになれないのではないのでしょうか。人と人のよりよいつながりの中での自己実現ではないと、皆から認められないし、幸せにつながらないと思います。はっきり言えば、社会の役に立とうとする社会貢献の精神がなければ、幸せはやって来ないと言えるでしょう。

3 社会貢献

社会とは、小さな単位から大きな単位があると思います。小さな単位は、家族や友達、そこから少しずつ広がっていき、学校や地域、福山市、広島県、日本、世界へと。宇宙まで行ってしまうとガンダムの世界になってしまいますが……。その中で「人の役に立ちたい」というのが社会貢献の精神だと思います。どうしたらその単位の中で、その人のためになるだろう。どうしたら、その人を支えてあげることができるであろう。」と思い行動に移すことが、社会貢献のあるべき姿だと思います。家族であれば、子どもの成長のために。地域であれば、そこに住む全ての人のため。会社であれば、従業員のため。商品を買ったり製造したりする会社なら、顧客のため。その関わり合う中で、社会貢献の精神を持って自己の夢を実現していけば、幸せを感じることができるのではないのでしょうか。

しかし、今いる環境は、自己実現できる状況ではないという方々もいるでしょう。そんな夢や希望が追い求める状況ではないと感じられているかもしれません。夢や希望は、そんな大きくて、派手なものではなくてもいいのではないのでしょうか。日々の暮らしにあるほんのささやかな夢でも、十分、人の役に立つことはできるし、幸せを感じることができると思います。

4 自立

ここまで、社会貢献のことばかり話してきましたが、一番大切なことがあります。それは「自立」です。自分のことは自分でできるということが教育の中心となります。これが身につくこそ、社会に役立とうします。それはそうですよね。自分のことができないのに、人を構う事なんてできませんから。基本的・生活習慣を身につけることです。これ

を保護者があまやかして、やってしまうといつまで立っても自分でできるようになりません。常に他人に援助を求め続ける人間になってしまいます。

5 学校や家庭でできること

そこで、子どもたちが将来幸せを感じることができるようになるために、今、私たちができることを考えたいと思います。

社会貢献の精神を持たせるためには、人の役に立ってよかったと思える経験をする必要があります。人のために役立ってよかったと思えない子どもは、人の役に立とうという行動をしなくなるからです。自分の行動を肯定されてこそ、次の行動につながります。

(1)役に立とうとする場と褒め言葉を与えましょう。

学校では、係活動、委員会活動、クラブ活動、児童会活動、学習活動の中で、様々な体験をします。その中で、「人の役に立っている行動」が見られたら、すかさず、「ありがとう。みんなが喜ぶよ。」「助かった。先生はうれしいよ。」と褒めちぎります。「すごいね。えらいね。」では、次の行動につながりません。褒められることに喜びを感じさせてしまうと、褒められなくなると行動しなくなりますが、「人の役に立つ行動」かどうかの視点で褒め、人の役に立つことに喜びを感じさせると行動が続きます。

家庭では、子どもに役割を与えることをしてください。どんなに時間がかかっても我慢してください。「私がやった方が早い」「片付けがあとあと大変。」と、思われ、保護者がやってしまう場合があるでしょう。それを続けてしまうと、いつまで立っても、その子は人の役に立とうとしなくなるでしょう。大人になった時、家族を顧みない行動



をするようになるやもしれません。でも、「役割を与えてもしないんです。」という方もいらっしゃるでしょう。ここは、我慢とタイミングです。ほんの一瞬でも、やったことをすかさず「〇〇ちゃん。ありがとう母さんとってもうれしかった。」と褒めます。しばらくするとまた、しなくなるでしょう。ここで我慢。またのチャンスを待ち、次の一瞬にかけます。これを繰り返せば、少しずつ「人のための行動」が増えてきます。

(2)礼節を教えましょう。

礼節とは、礼儀と節度であり、相手のことを考え行動です。「人の役に立つ」というよりも「人を気持ちよくさせる」行動でもあります。例えば、姿勢良くしてはきはきと挨拶をされると、された人は気持ちがよくなります。食事をする時、感謝をこめて「いただきます。ごちそうさま。」と言えば、作ったおうちの方は、うれしいですよ。人が話

をする時、よい姿勢で聞いてくれると、大切にされていると感じます。身だしなみを整えることもそうです。相手のことを考えた服装や装飾品を身につけていれば、相手を大切にすることになります。それに比べて、おしゃれは、自己満足であり、自分のことしか考えていないので、相手の気持ちはおかまいなしです。

このように「人の役に立つ」は「相手意識を持って行動する」と同じ事ですから、礼節を今のうちに教えてやりたいものです。



(3)自立起床をさせましょう。



身の回りの整理整頓も大切ですが、まずは「自立起床」自分でめざましをかけて自分で起きられるということをお願いします。これができるようになれば、随分と違う自立した姿をみられるようになるはずです。

EPISODE 1

学校にお客さんが来られました。その方は、初めて山南に来られたのでしょうか。玄関で困ったように、あちこちを見まわしていると、そこにたまたま居合わせた子どもが、こう声をかけました。「何かお困りですか。」するとその方は、「保健室に孫を迎えにきたんじゃけど」と答えられました。子どもは、「ご案内しましょう」と。

EPISODE 2

玄関前の草むしりをしていると、「校長先生、何をされていますか。」と何人かの子どもたちが声をかけてくれました。「うん、草が生えて、お客さんを迎えるのにみっともないので、草を抜いているんよ。」するとその子たちが「お手伝いしてもいいですか」と。

EPISODE 3

先生が、給食を運んでいると、子どもが「先生、ありがとう。」と。感謝することができる子どもは、感謝する対象や感謝に値する行動がわかります。「人の役に立つ」という行動を認知しているのです。

このような行動が山南小の子どもたちには、数多くみられます。しかし、もっともっとこのような素敵な行動を増やし、山南の山々を花いっぱい咲かしたいです。そしてこの子たちが幸せを感じる人生を送れますように、しっかりと支援をしていきたいと思えます。